



地域の公共図書館の役割と課題

デジタルアーカイブ学会第9回研究大会
地域アーカイブ企画セッション
「デジタルアーカイブの裾野・地域アーカイブの現在」
令和年6年11月2日(土)
田原市図書館長 是住 久美子



自己紹介

是住 久美子（これずみ くみこ）

1999年～2001年 NTTコムウェア株式会社

2003年～2018年 京都府立図書館勤務

（2011年～2013年 国立国会図書館関西館勤務）

2018年4月～ 田原市図書館勤務

2019年4月から現職

2018年3月同志社大学大学院総合政策科学研究科修了（政策科学修士）

2020年9月～愛知大学非常勤講師（社会教育）

2024年4月～筑波大学大学院博士後期課程在学中

田原市の概要

(令和6年9月30日時点)

- 行政面積

1 9 1 . 1 1 k m²

- 総人口

5 8 , 3 7 1 人

うち外国人1970人

- 世帯数

2 3 , 3 6 0 世帯



市民とつくる 図書館

参加と協働の視点から



青柳英治

(編著) Eiji Aoyagi

勉誠出版

市民が参加・協働する図書館づくり

市民がまちづくりに取り組む方法には「参加」と「協働」があります。これらは、近年人口減少の問題を用いて、公立図書館を計画・設計・運営する事例がみられる。本書では、図書館の実例における「参加」とは、回車部の理念、基本計画や基本設計など図書館の設置にかかる連のプロセスに市民が行枚や設計者など主体的にかかわることを指す。他方、「協働」とは、図書館開館後も市民が継続して図書館活動を支援していくために行政と市民が協力していくことを指す。本書は、特に市民が図書館活動に参加・協働する状況を「市民とつくる図書館」と捉えて、具体的な取り組みを紹介することで、各図書館の開館に至るプロセスを明らかにする。

『市民とつくる図書館
参加と協働の視点から』

青柳英治編著
勉誠出版
2021年12月出版



かぶ会議(月1回)





市民提案型協働委託事業

「前日物語～終戦前日の米軍、渥美線機銃掃射事件～」の紙芝居化、デジタルアーカイブ化

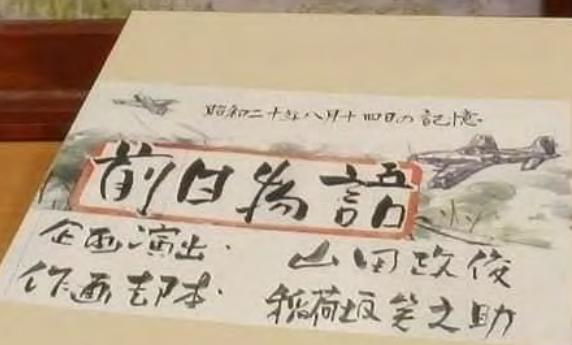




デジタルアーカイブ講習会
講師:岐阜女子大学 谷理佐教授



紙芝居講習会
講師:宮崎二美枝先生



カテゴリー：[社会・経済](#)

ツイート

いいね！ 0

終戦前日の1945年8月14日、渥美線の列車が米軍の機銃掃射を受けた事件を長年語り継いできた彦坂昭市さん（91）＝田原町＝が4月27日亡くなかった。無差別銃撃の体験を紙芝居にした「前日物語」を作り、各地で精力的に戦争の悲惨さと平和を訴え続けた。紙芝居は市中央図書館がデジタルデータに収め、東三河の全自治体を通じて生かされている。

彦坂さんは当時、線路付近の監視施設で米軍機の飛来を知らせる任務に当たっていた。当日は当直明けで自宅におり、空襲警報で近くの松の木に登って米軍機を目撃したという。無差別銃撃で車掌と一般乗客、彦坂さんの同級生ら31人が死傷した。

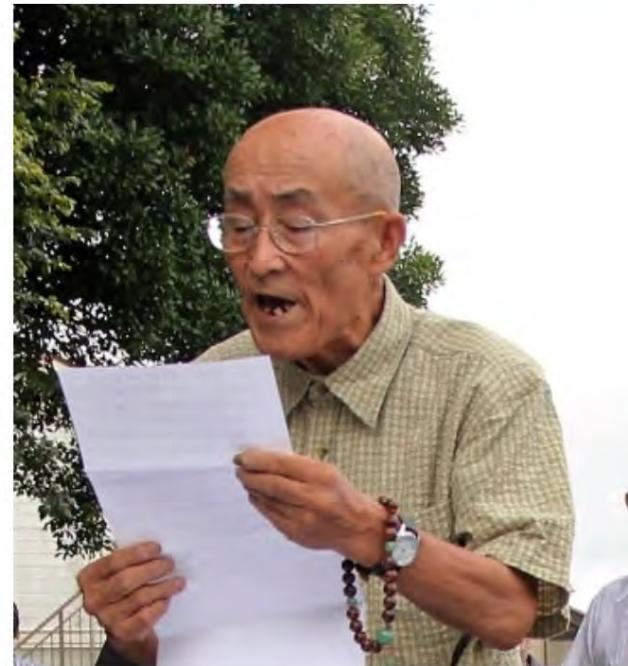
無差別銃撃事件は事実関係の資料が乏しく、乗客や犠牲者周辺、目撃者らの記憶に頼った。戦争体験の記憶を残そうと動き出したのは約8年前。郷土史家で元教員の山田正俊さんの後押しがあったからだという。

地域の郷土史愛好家でつくる「豊川（とよがわ）流域研究会」の代表を務める山田さん。事件の風化を恐れて関係者らへの聞き取り調査によって「証言集」を残す取り組みを始めた。

一連の調査活動で彦坂さんと出会ったのは2014年頃。聞き取りを機に交流が生まれ、翌年から田原市豊島町の慰霊碑前での法要も始まった。

さらに、調査で機銃掃射の場面を描いてみせる彦坂さんの画力に周囲も目を見張った。それから数年後に「一緒に紙芝居にしませんか」と制作を持ち掛けた。

絵筆をとった彦坂さんは「稻荷坂笑之助」と名乗り、18年3月に



慰霊碑前で犠牲者を弔う彦坂昭市さん(2017年8月12日)

東愛知新聞電子版2022年5月7日より



水言約墨

紙也。前日物語。故未
も。御宿市中典圖書館に。未だ。書
の事。

一ノ和元斗音

紙 詞 答 之



【田原市図書館デジタルアーカイブのご案内】

田原市図書館は、様々な団体等との協働により田原に関する歴史・文化資源のデジタルアーカイブ化を進めていきます。また、それらを可能な限り、誰でも許諾なしに利用ができるオープンデータとして公開します。

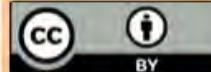
◆市民協働事業「前日物語」

令和元年度市民提案型委託事業としてNPO法人たはら広場と田原市図書館が協働で制作した、終戦前日に起きた渥美線機銃掃射事件を伝える紙芝居「前日物語」のデジタルアーカイブ

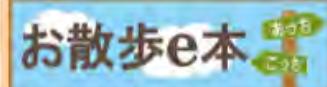
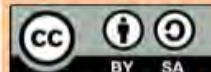
タイトル	サムネイル・動画リンク	概要	制作	ライセンス・ダウンロードURL
昭ちゃんの紙芝居実演動画	 動画はこちら (Youtubeが開きます)	衣笠市民館での実演動画	NPO法人たはら広場・田原市図書館	
紙芝居の動画		当館職員による紙芝居読み聞かせ動画	NPO法人たはら広場・田原市図書館	東三河オープンデータサイト

◆新聞記事見出しデータ

東愛知新聞に掲載された、田原市に関連する記事見出しのデータです。田原市図書館が日々、登録してきた2001年4月1日～2020年3月28日までの記事見出し16,402件を、東愛知新聞社さんのご英断でオープンデータとして公開します！！
今後も追加予定です。

タイトル	サムネイル・リンク	概要	制作	ライセンス・ダウンロードURL
東愛知新聞 _田原市関連記事見出 しデータ	 	東愛知新聞に掲載された、田原市に関連する記事見出しのデータ	東愛知新聞／田原市図書館	 東三河オープンデータサイト Linkdata.orgサイト

◆電子書籍

タイトル	サムネイル・リンク	概要	制作	ライセンス・ダウンロードURL
お散歩 e 本		田原市内で「お散歩」ワークショップを行い、その成果をガイドブックとしてまとめた田原市初の電子書籍	お散歩e本実行委員	 東三河オープンデータサイト

図書館開館時（2001年）から主要紙の田原市に関連する記事のクリッピング、記事見出しのデータ化をやってきた。

図書館振興財団の助成事業を利用して、1963年～1991年の地方紙の紙面デジタル化と見出しデータのデータ登録を実施中

見出しデータはウェブで検索可能。
見出しデータをオープンデータ化

ウィキペディアタウン in 田原

2024 8/25 (日)

10:00AM 三河田原駅集合
会場 田原市博物館／峯山会館

博物館で開催される展覧会「開業100年 湿美線」や、地域の物流拠点だった旧田原港を見学し、文献等とともに百科事典 Wikipedia に編集し、世界へ向けて発信してみませんか？



田原港（1935年ごろ） 鈴木政一氏撮影



植田駅を発車する渥美線電車（1974年） 豊橋鉄道蔵

講師 **らっこ**
海獺 氏

（Wikimedia Commons 日本語版元管理者）

対象 中学生以上

参加費 無料 ※昼食代は実費

定員 15名（受付順）

持ち物 ノートパソコンまたはタブレット
カメラ（あれば）

スケジュール

- 10:00 三河田原駅に集合
- 10:05～ まち歩き（三河田原駅～旧田原港）
- 12:00～ 昼食（グリル華 [予定]）
- 12:50～ 博物館へ移動
- 13:10～ ウィキペディアについて（海獺氏）
- 13:40～ 展覧会見学
- 14:20～ ウィキペディアの記事編集
- 16:00～ 成果発表
- 16:30 終了

申し込み

7月23日(火) 午前10時～ 図書館カウンター、電話
またはLoGoフォーム (QRコード) にてお申込みください



LoGoフォーム

※Wikimedia Commons の編集が初めての方は、事前にアカウント作成をお願いします

主催：田原市図書館 共催：田原市博物館 協力：Code for MIKAWA

2017年から開催

まち歩きの様子



編集作業・発表の様子





渥美線機銃掃射事件

文 言語を追加

目次 非表示

ページ ノート

閲覧 編集 履歴表示 ツール

表示 非表示

ページ先頭

背景

記録

前日物語

出典

テキスト

 小 標準 大

幅

 標準 広め

色(ペーパ)

 自動 ライト ダーク

渥美線機銃掃射事件（あつみせんきじゅうそうしゃじけん）とは、現在の愛知県田原市豊島町天白地内で、1945年（昭和20年）8月14日、三河田原駅を発車した豊橋方面に向かう名古屋鉄道（名鉄）渥美線（現・豊橋鉄道渥美線）の電車が米軍の戦闘機により機銃掃射された事件^{[1][2]}。

背景 [編集]

戦時中の渥美線は多くの兵士や勤員学徒、徴用工具らを駐屯地や重需工場へと運んでいた^[3]。元小学校校長であり後述の「前日物語」の作成に注力した山田政俊は、前年の1944年7月のサイパンの戦闘で日本軍が全滅した時期以降に、米軍機が日本本土の空襲が顕著になり、この事件につながったと語っている^[4]。

記録 [編集]

銃撃があった隣村の神戸村役場の当日の日誌には、「15名即死、16名重軽傷」と記録がある^[5]。戦時下の出来事だったため、報道がされることなく、調査もほとんどされていなかつたために、事件の詳しい状況が載っている資料がなかったが、豊川流域研究会が2014年から2015年の2年間で当時の乗客や目撃者へ聞き取り調査を行い、証言録を作成している^{[6][7]}。

のちに事件を長年語り継ぐ彦坂昭市は機銃掃射のあった当日、戦闘機2機を目撃している^{[8][9]}。また別の資料では機銃掃射を行った戦闘機は、3機の米軍の戦闘機P51とされている^[2]。豊橋鉄道の資料では事件が起きたのは旧天白駅付近としている^[10]。

前日物語 [編集]

「前日物語」とは終戦前日に起きた渥美線機銃掃射事件を伝える紙芝居である。事件の惨劇を次世代に伝えるため、2015年の夏に山田政俊の呼びかけで「前日の会」が発足し、出前授業を開き、空襲体験を語り継いでいる^[11]。



渥美線電車米軍機銃撃の犠牲者^[6]を慰む石碑

公共図書館の地域資料のデジタル化の遅れ

一部の図書館のみの実施(24.4%)に留まる

原因:ノウハウ、予算、職員不足から(全国公共図書館協議会2018)

ノウハウ不足

- ・市民とともに学ぶ

図書館職員への研修、市民への情報リテラシー教育

- ・地域のシビックテックとの連携(Code for MIKAWA)
- ・大学等との連携

予算不足

- ・予算が無いことをやらない理由にしない
- ・使えるものを使う。ホームページへの掲載、外部サービス（YouTube,flickr,Wikipediaプロジェクト等）
元データをしつかり保管したうえで、サービスを乗せ換えていく
- ・交付金、補助金の活用（メリット・デメリット）
デジタル田園都市国家構想交付金、図書館振興財団助成

職員不足

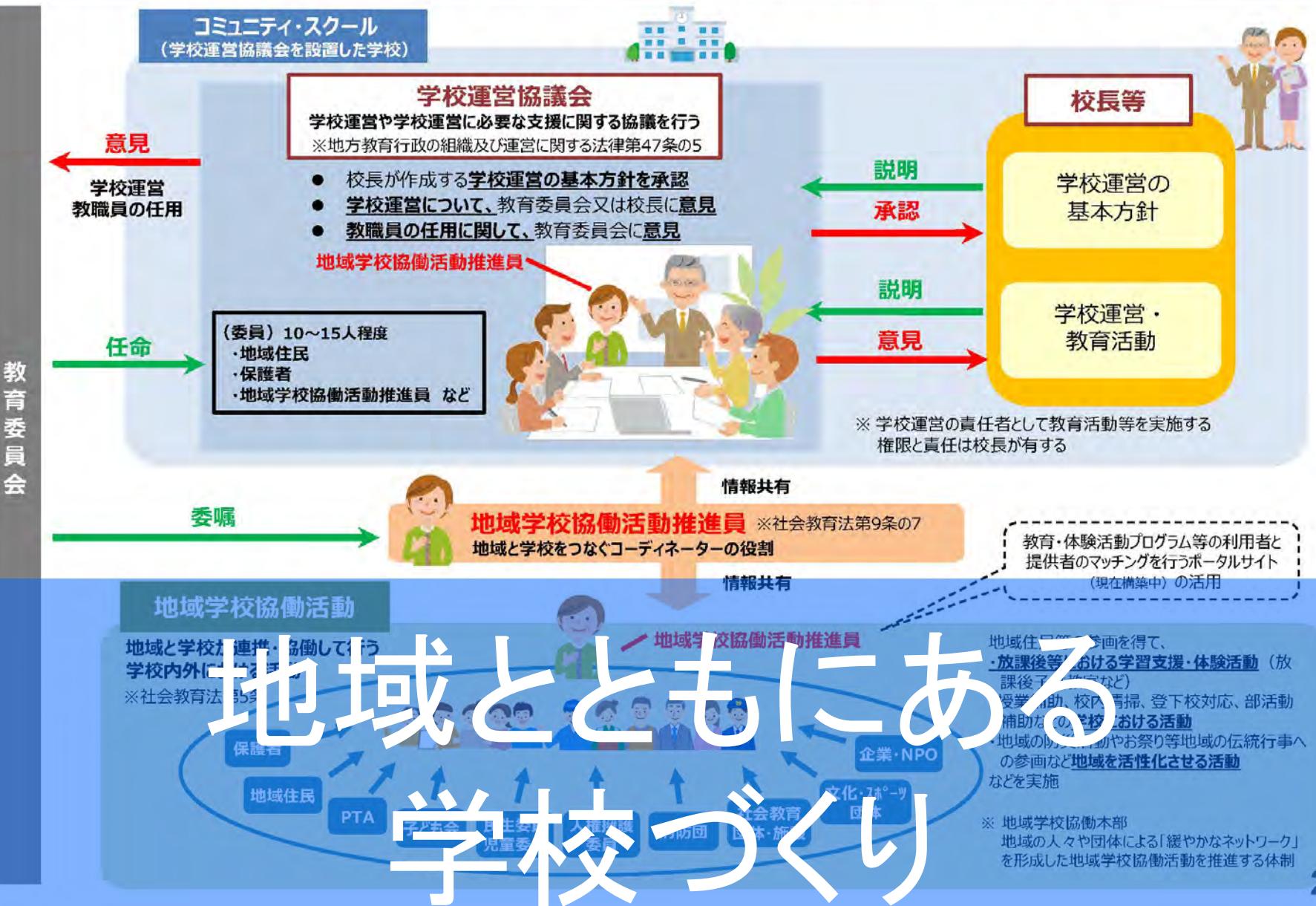
- ・専任・兼任の司書・司書補の割合（20.8%）
(日本の図書館統計と名簿2023(日本図書館協会))
- ・市民協働

公共図書館の地域デジタルアーカイブに求められるもの

地域資料の保存と公開を超えて

- ・地域アイデンティティの醸成
- ・地域活性化
- ・市民参加による新たな価値創造

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する 総合的なガイドライン【概要】

- 少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。その際、生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要。
- 令和4年夏に取りまとめられた部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、平成30年に策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を統合した上で全面的に改定。これにより、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方を提示。
- 部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。

※ I は中学生を主な対象とし、高校生も原則適用。II～IVは公立中学校の生徒を主な対象とし、高校や私学は実情に応じて取り組むことが望ましい。

I 学校部活動

教育課程外の活動である学校部活動について、実施する場合の適正な運営等の在り方を、従来のガイドラインの内容を踏まえつつ示す。

(主な内容)

- ・教師の部活動への関与について、法令等に基づき業務改善や勤務管理
- ・部活動指導員や外部指導者を確保
- ・心身の健康管理・事故防止の徹底、体罰・ハラスメントの根絶の徹底
- ・週当たり2日以上の休養日の設定（平日1日、週末1日）
- ・部活動に強制的に加入させることがないようにする
- ・地方公共団体等は、スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等の協力の下、学校と地域が協働・融合した形での環境整備を進める

II 新たな地域クラブ活動

学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示す。

(主な内容)

- ・地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実
- ・地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会による体制の整備
- ・指導者資格等による高い指導者の確保と、専門性による教材の整備、意欲ある部員等の円滑な就業
- ・競技志向の活動だけでなく、複数の競技・野球など、生徒の志向等に適したプログラムの確保
- ・休日のみ活動をする場合も、原則として1日の休養日を設定
- ・公共施設を地域クラブ活動で使用する際の負担軽減・円滑な利用促進
- ・困窮家庭への支援

III 学校部活動の地域連携や

地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、その進め方等について示す。

(主な内容)

- ・まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進
- ・平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進
- ・①市区町村が運営団体となる体制や、②地域の多様な運営団体が取り組む体制など、段階的な体制の整備を進める

※地域クラブ活動が困難な場合、合同部活動の導入や、部活動指導員等により機会を確保

- ・令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す

- ・都道府県及び市区町村は、方針・取組内容・スケジュール等を周知

IV 大会等の在り方の見直し

学校部活動の参加者だけでなく、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に

(主な内容)

- ・大会参加料金を、地域クラブ活動の委員等も参加できるよう見直し

※日本中体連は令和5年度から大会への参加を承認、その着実な実施

- ・できるだけ教師が引率しない体制の整備、運営に係る適正な人員確保
- ・全国大会の在り方の見直し（開催回数の精選、複数の活動を経験したい生徒等のニーズに対応した機会を設ける等）

学校部活動の地域移行